

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

今年の「立春」は、曆のずれの影響で12年ぶりに9月3日、その前日が節分。立春とは、二十四節気での春の始まりで、1年の

始まりとされる日だ。しかし節分は、豆まきをして、恵方巻を食べる行事の日としての認識を持つ人も多い。豆まきでは、窓などを開けて、「福は内」「鬼は外」と声を出しながら豆まきをする地域も多い。白馬村は感染警戒レベル5、特別警戒Ⅱが発出中、換気も兼ねて家中の窓を開けて、コロナの鎮静化を願う「コロナ鎮まれ」、拡散しない事を願う「コロナは外」は控えるなど、思い思いに取り組んだら職場や家族のコロナに対する意識も更に高まるのではないだろうか。

今年の少寒は1月5日、立春は9月3日、この期間が「寒」だ。毎年この間には、不思議に少し暖かい日があり雨が降り、この雨を「寒の雨」と言われ、昔から豊作の吉兆だと言われている。寒の入

## コロナ禍だからこそ、相手の立場に身を置く事が大切だ

いいのではと、幼少時代を過ごした南佐久郡小海町の松原湖の冬の風景の内容の詩だ、NHKの「みんなのうた」で唄正章さんと東京放送児童合唱団が歌唱を担当としたが、私は、北島三郎さんとひばり

コロナ禍で、多くのイベントが中止になり、練習を積み重ねた好成绩を目指したさまざまなジャンルの大会が中止されたり、成人式も予定通り行われないうち各方面が大混乱だ。徳万智さんの一首

「バカの壁」の著書で有名な養老孟司さんは「動物にはなくてヒトにある能力は同じにする事だ」とし「ヒトは相手の立場に身を置く事ができる。これは民主主義の基本だ」と強

調している。コロナ禍で大変な時期だからこそ、自分だけと思わず、皆でと、考え続ける事が大切だ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



厳しい冬に育つ雪中カンランは優しい甘みを増す。コロナ禍が明ける先が楽しみだ